

金山町立金山中学校 第10号

学校だより

令和5年1月10日発行
発行責任者:金山中学校長

こんにちは先輩 大竹 恵子 さん (色鉛筆画家、金山町大志)

12月20日(火)、キャリア教育講演会を開催しました。今回は色鉛筆画家の大竹恵子さん(大志出身)を講師に招き、画家を目指した経緯や仕事の大変さ、やりがいなどの講話を頂きました。「好きなことに挑戦してみたいと思った」「大変なことも多いけど、自分で決めた道だから頑張れた」と、大竹さんがこれまで経験し、感じてきたことのお話しに、生徒は真剣に耳を傾けていました。後半は色鉛筆のワークショップを体験し、雫を描くことに挑戦しました。将来について考えるとともに、絵を描くことの楽しさに触れることができ、充実した時間となりました。



基礎学力コンテスト (漢字・数学・英単語) の実施

本校では、基礎・基本の学力の定着を図ることを目的として、基礎学力コンテストを実施しています。今年度は、7月に漢字、9月に数学、12月に英単語のコンテストを行いました。実施1ヶ月ほど前から準備を始め、1週間前からはプレテストで定着度合いを確かめながら本番を迎えます。どの生徒も、合格(8割以上正答)だけでなく、満点を目指し熱心に学習に励む姿がとても印象的でした。各コンテストの満点証受賞者は以下の通りです。

漢字コンテスト 満点証

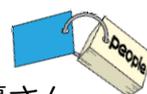
小林大翔さん 佐藤紗季さん 大島柑楠さん 高橋千優さん 坂内香音さん

数学コンテスト 満点証

小林大翔さん 高橋遼太郎さん 丹治克彰さん 馬場健人さん 須佐桂伍さん
藤井脩生さん 大島柑楠さん 高橋千優さん 坂内香音さん 船城敏照さん

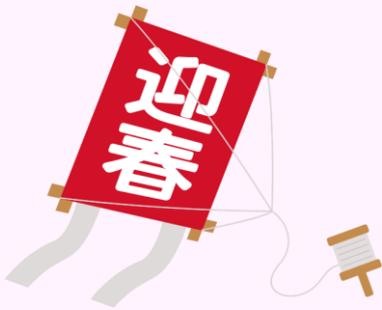
スペリングコンテスト 満点証

伊藤 燦さん 小林大翔さん 馬場健人さん 大島柑楠さん 高橋千優さん



令和4年度第3学期 51日間（3年生44日間）がスタート

1月10日（火）の第3学期始業式において、校長より話した内容を紹介いたします。



皆さん、あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、本日、皆さんの元気な姿を見ることができ、安心しました。全校生18名全員と、何事もなく第3学期始業式を行えることを、大変嬉しく思います。冬休みの17日間、有意義に過ごすことはできましたか。新しい年となり、新たな希望や目標をもって、本日を迎えたのではないかと思います。

さて、令和5年の干支は「癸卯（みずのと う）」です。「癸（みずのと）」は十干の最後ということで、生命の終わりや次の新たな生命の成長、恵みの水などの意味があります。そして十二支の「卯（う）」には、安全・温和、ウサギが跳んで進むということもあり”何かを開始するのに縁起が良い”とされています。そんな令和5年は、皆さんにとって「これまでの礎を基にして、勢いよく成長し飛躍する」1年になるのではないのでしょうか。

新学期の始まりにあたり、私が皆さんに期待したいことをお伝えします。

1年生は、今まで以上に自分の行動に責任をもち、そのうえで、自分のことだけでなく、まわりの人のことも考えて行動できる学年になってほしいと思います。それは、「協力ができる」ということでもあります。誰に対してでも、自ら進んで協力ができる学年になってください。

2年生は、学年集団としての力をますます充実させるとともに、最高学年の3年生になるという意識を少しずつ高めていってください。よく「2年生の3学期は、3年生の0学期」とも言われます。1年間のまとめとともに、4月からの準備も含めた学期となるよう、そのような意識で過ごしてください。

3年生は、金山中学校の顔としての最後の学期を迎えます。自分自身の進路を切り拓くために、最大限の努力を尽くしてください。最高学年にふさわしく、少し緊張感のあるよい雰囲気を保ち、これまで同様1・2年生の模範となる姿を示しながら、卒業を迎えてほしいと思います。

ところで、3学期はよく「まとめの時期」と言われます。この「まとめ」とは、どういうことでしょうか。「まとめる」とは、バラバラになっていたいくつかのものを集めて1つにするということですね。1学期や2学期に学んだことや体験したことを集めて、1つにするということです。

1つにするといっても、ただ入れ物を準備して、そこに一緒に入れるという意味もあれば、バラバラだったものを組み合わせて、新しい何かをつくるという意味もあります。どちらも大事ですが、3学期には皆さんに、今まで学んだことや体験したことを組み合わせて、新しい何かをつくるということにも挑戦してみしてほしいと思います。

もちろん、それはいつでもできるのでしょうけれど、培ったものが多い3学期が、その学年で最も新しいものを生み出すチャンスが多いといえるはずです。皆さん1人1人が、これまでに経験したことや学習したことを組み合わせ、新しいことを生み出そうという意識をもって、何事にもチャレンジすることを期待して式辞とします。



令和5年も引き続き、本校教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。